

大谷池（おおたにいけ）

位置図



諸元

貯水量	928 千m ³
満水面積	14.2 ha
集水面積	70 ha
受益面積	160 ha
堤高	16.9 m
堤長	230 m

大谷池の起源は古く、応仁の乱真つ只中である文明二年(1470年)に、^{けいえいしょうにん}慶恵上人により築かれたと伝えられています。萩の名所で名高い萩原寺(観音寺市大野原町)近くに所在する大きなため池です。

当時は大谷池築造により^{ごこくほうじょう}五穀豊穰を喜び合いましたが、年々開拓が進むにつれ用水不足が生じるようになり、慶長から大正にかけて、五度に及ぶ堤防の嵩上げ工事が行われています。このように度重なる改良工事が加えられ、安定した貯水が保たれるようになった終戦直後(1946年)、突然、副堤防が決壊流失しました。6名の尊い人命と55棟の家屋を一呑みにし、800余名の被災者を出す大惨事となったのです。しかしながら、住民の熱意により、この困難を克服し三年余りで復旧工事を完成させています。

その後、大谷池は県営事業等により改修し、堤防、樋管、洪水吐を磐石なものとなりました。

その結果、満々と水を湛え昔から「大谷池に不作なし」と謳歌されるにふさわしいため池に生まれ変わっています。

大谷池は萩の丘公園の中の水辺空間として訪れる人々の憩いの場ともなっており、その周辺には福祉、スポーツ、教育文化の拠点となる市の総合福祉会館などがあります。



大谷池



本堤と副堤